

1. 感染症速報

第29週 7月14日 ~ 7月20日				作成元:長崎県杵岐保健所 企画保健課					
疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ	3.67	RSウイルス感染症	0.50	咽頭結膜熱	0.00	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	0.50	急性呼吸器 感染症(ARI)	31.33
警戒:開始30 終息10		警戒:開始 - 終息 -		警戒:開始3 終息1		警戒:開始8 終息4		警戒:開始 - 終息 -	
感染性胃腸炎	3.00	水痘	0.00	手足口病	0.00	伝染性紅斑 (リンゴ病)	2.50	※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI) ※定点数2:上記以外の疾患	
警戒:開始20 終息12		警戒:開始2 終息1		警戒:開始5 終息2		警戒:開始2 終息1		※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなども含まれ、報告数は重複します。	
突発性発しん	0.00	ヘルパンギーナ	0.50	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	0.50	新型コロナウイルス感染症	1.33		
警戒:開始 - 終息 -		警戒:開始6 終息2		警戒:開始6 終息2		警戒:開始 - 終息 -			
発生報告なし		少数の発生あり		流行に注意 【注意報レベル】		流行中 【警報レベル】			

※警戒レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフル:10 水痘:1 その他は設定なし。

2. トピックス

★伝染性紅斑（リンゴ病）の報告が多くなっています！

現在、杵岐管内では警戒開始基準値を超える「2.50」の報告数となっています。

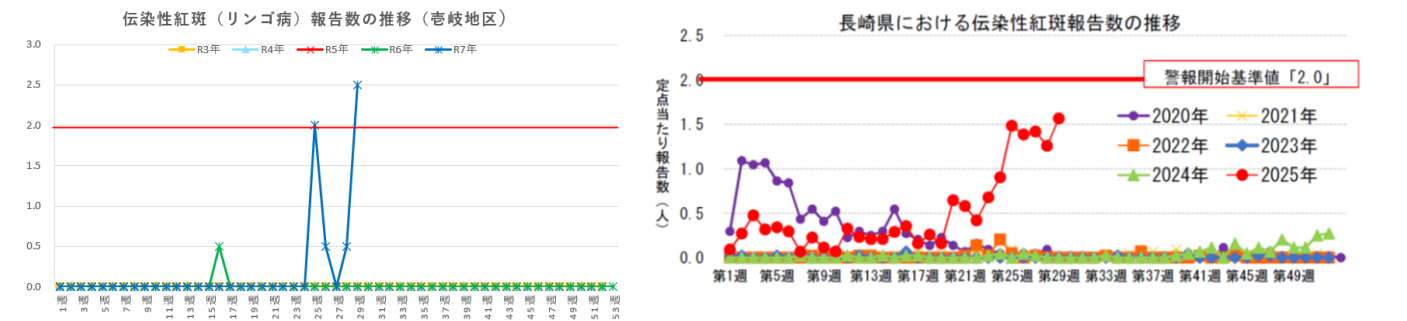
治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、**これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。**

県内の2025年第29週の定点当たり報告数は「1.57」で、過去5年の中で、最多の定点当たり報告数となりました。地区別にみても、佐世保地区（4.67）、杵岐地区（2.50）、長崎地区（2.00）、西彼地区（2.00）、県央地区（2.00）は警戒レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるとわれています。

(参考)厚生労働省 伝染性紅斑



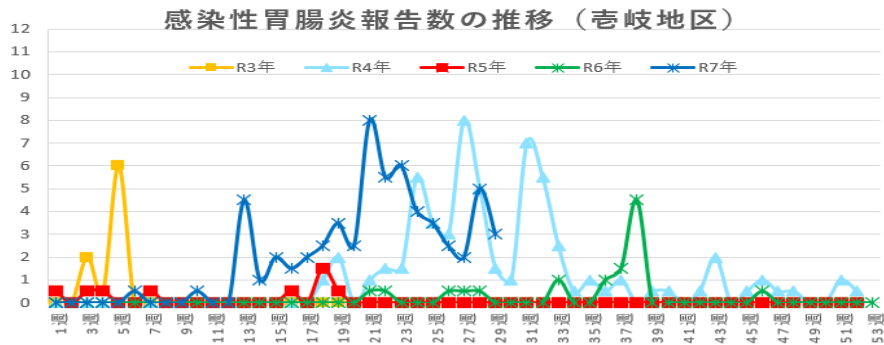
★感染性胃腸炎に注意しましょう

杵岐管内における第29週の定点当たりの報告数は「3.00」で、前週の「5.00」、前々週の「2.00」と、報告数は例年より多く推移しています。

県内においては、第29週の報告数は102人で、定点当たり報告数は3.40でした。地区別にみると、県北地区（9.50）、西彼地区（7.33）は、他の地区より多くなっています。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

また、感染した人の便、吐物には大量のウイルスが含まれているため、取扱いには十分注意して処理してください。（詳しくは、別添の「感染症対策普及リーフレット」（R5厚生労働省作成）をご覧ください。）



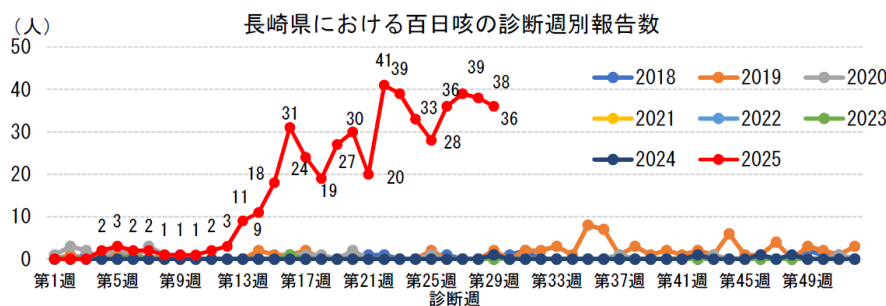
★百日咳の報告が多くなっています

吉岐管内において、全数把握疾患となった2018年以降、2020年に1件、それ以降の2024年までは報告数は0件でしたが、2025年に入ってから第29週まで12件と最多の報告数となっております。年代別では、40代（6人）、50代（3人）、30代（1人）、10代（1人）、80代（1人）の報告があります。

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

県内においては、2025年第29週には36件の報告があり、年代別では、10代（15人）および10歳未満（7人）が多くなっています。また、2025年第29週までの496件の報告においても、10代（249件、50%）、10歳未満（130件、26%）が多く全体の約8割を占めています。

感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。



★海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

夏期休暇を利用して海外へ渡航される方が増えることが予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

(参考)厚生労働省 [海外へ渡航される皆様へ](#)

(参考)厚生労働省検疫所(FORTH)

＜7月28日～8月3日は「肝臓週間」、7月28日は「日本肝炎デー」＞

一生に一度は肝炎ウイルス検査をうけてみませんか？

○**肝硬変や肝がんの主な原因は肝炎ウイルス**です。ウイルスに感染しても自覚症状はなかなか出ません。検査は**血液検査**で簡単にできます。**感染しても適切な管理・治療で肝硬変や肝がんを防ぐことができます。**

○**長崎県では、委託医療機関で無料肝炎ウイルス検査を実施**しています。

また、肝炎の治療には高額な医療費がかかるため、**長崎県では肝炎治療費の助成**を行っています。

検査を受けたことのない方、これから治療をされる方は、お気軽に吉岐保健所（47-0260）へお問い合わせください。

○無料で検査できる委託医療機関（10か所） R7.7月現在

郷ノ浦：吉岐病院、品川病院、光武内科循環器科病院、でぐち整形外科医院

勝 本：品川内科医院、品川クリニック

芦 辺：松嶋医院、久原医院、しらかわ内科クリニック

石 田：江田小児科内科医院



感染対策普及リーフレット



排泄物・嘔吐物処理の手順

- 1 汚染場所に人が近づかないようにし、大きく窓を開けるなどして換気します



- 2 使い捨て手袋とマスク、エプロンを着用します



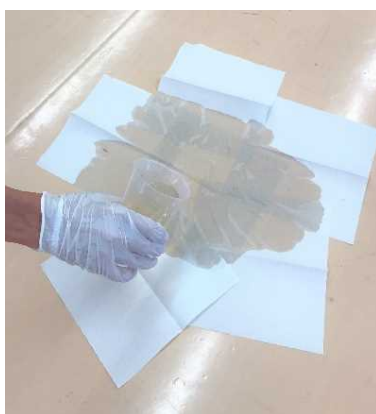
- 3 嘔吐物は、使い捨てのペーパータオル等で外側から内側にむけて、静かに拭き取ります



- 4 使用したペーパータオル等はすぐにビニール袋に入れます



- 5 嘔吐物が付着していた床とその周囲を0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませたペーパータオル等で覆うか、浸すように拭きます



- 6 使用したペーパータオル、手袋等はすぐにビニール袋に入れ、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込む程度に入れ、消毒します



- 7 ビニール袋の口をしっかりとしばります



- 8 処理後は、しっかりと手洗いをします

